

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401426		
法人名	有限会社 気楽		
事業所名	有限会社 気楽 グループホーム ポテの丘		
所在地 (電話番号)	長崎県雲仙市愛野町乙3501-3 (電話) 0957-27-5242		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年6月4日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.1人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造スレート 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,555 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	4名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 76歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国立病院機構長崎病院、松本医院、くさの循環器内科、田口歯科医院、深沢整形外科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者姉妹の父親のジャガイモ畑を整備して建てられ『ポテの丘』と名づけられたホーム外観は、坂の上から見える緑のトンがり屋根や白い外柵、表札が何か楽しい事が起こりそうな連想をさせる。玄関を入ると正面はガラス張り、中庭の植木が眺められ手作りの花台に花が飾られ、ベンチは入居者の体操を行ったり思い思いに寛げる場所になっている。皆が集うロビーは手作りの大きな日めくりや目の前に広がる橋湾が一望に見渡せ、ベランダは広い庭に通じ犬小屋や水仙の花、畑の葱・白菜・大根等の旬の味覚と季節の移ろいを感じ、気楽に楽しく過ごす事が出来る。独居の親類の認知症の発症を機に、看取りをしたいという思いと自分が入居る場所、入居者本位という強い思いを基に、職員からの提案を入居者のケアに反映させ、皆が一生懸命しているから笑顔でいられ、お互いの事を考えながらケアを行えるように、職員の働きやすさに配慮され入居者も職員も明るく笑顔で生活している所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①音の大きさ等注意して調整し適切に保てるよう配慮している②個別・具体的な課題・目標を記載し、状態や要望の変化がある時には臨機応変に計画の変更を行っている③入居者の生活習慣等を把握し馴染んでいる言葉かけや、自尊心・羞恥心に配慮しさりげない誘導を行っている④食事量・飲水量の把握・記録し週1回体重測定を行い、必要に応じて高カロリー飲料やゼリー等利用している⑤接遇や介護技術等の勉強会や外部研修の伝達を行っている
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価について自分達のケアを振り返り次へつなげる事を伝えているが、評価の目的や結果の活用について深い思い遣は伝わっていないと感じている。代表は職員が記入した自己評価を一つにまとめる中で、一人の職員の意見でも改善の必要性のある事は取り組もうと考えており、前回評価結果に基づき職員と話し合い、改善策を検討し少しずつ取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議をリビングで行い会議録は全家族の方に郵送し、出席者から「火事の時に困る」とのご意見に、自治会の方が役場に相談され町内の消火栓が早々に設置された。認知症の理解を深め若い人達にも広げたいと勉強会を提案し、公民館の敬老会でお話して、地域の方に介護相談に応じれる事やホームの存在を理解して頂いている。申請手続き推進会議の案内を支所にお持ちし、何かある時に支所に出向き入居者の相談をしたり助言を頂いている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 請求書発行時に“ポテの丘だより”をお渡しし、遠方の家族の方には入居者の体調が良い時に、電話をして声を聞いて頂いている。市等の相談窓口は入居時にお伝えしホーム内の掲示や、ご意見・不満・苦情を率直に言って頂けるよう、来訪時や計画作成時に家族に「何かありませんか」と常にお聞きし、親睦も兼ねて年に一度家族会・食事会を行い、苦情等を言い易い雰囲気作りを行っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) くunchや公民館の敬老会に入居者と一緒に行ったり、中学校ふれあい体験や楽器演奏の慰問、ボランティアの蕎麦打ち、出荷後の畑のジャガイモ堀りや野菜を頂いたりしている。中学校生徒に向けて認知症の寸劇を行ったり、県の依頼でリーダー研修の受け入れを行っている。地域の寄りに代表が出席し、ゴミステーション迄の道を入居者と一緒に清掃したり、自治会の入会や地域からの入居者もあり、以前にも増して挨拶が気軽に交わされるようになっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の管理者が自分が入れる施設を造りたいという思いと、家族の認知症発症を機にH.14.9ホームを開設し、役員3人で「気持ちよく楽しく過ごしましょう」と理念を作った。笑い声が聞こえる楽しい雰囲気の中で、毎日を過ごし何でも前向きに考えようという思いを込めて、全職員でH.16入居者の視点で新たに介護理念を作り上げた。代表が地元出身で常に地域と交流しているが、理念の中に“地域”の視点は盛り込まれていない。	○	入居者主体という事を職員と話し合いながら、もう一度見直そうと考えており、地域密着型サービスとしての役割が地域の方にも解り易く、理念に盛り込まれるよう期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアが行われ全職員に浸透しており、月2回のミーティングや朝礼で、入居者の変化を話し合う際に気になる所について、理念の言葉としては出さないが照らし合わせながら指導・注意している。入居者が嫌な事も気兼ねなく伝えられるのは、良い事だと捉え様子を見ながら入居者本位にと常に伝え、振り返りながら理念の共有の取り組みを今後も継続していく。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	くちや公民館の敬老会に入居者と一緒に行ったり、中学校ふれあい体験や楽器演奏の慰問、ボランティアの蕎麦打ち、出荷後の畑のジャガイモ堀りや野菜を頂いたりしている。中学校生徒に向けて認知症の寸劇を行ったり、県の依頼でリーダー研修の受け入れを行っている。地域の寄り合いに代表が出席し、ゴミステーション迄の道を入居者と一緒清掃したり、自治会の入会や地域からの入居者もあり、以前にも増して挨拶が気軽に交わされるようになっていく。	○	地域との関わりを増やしたいとの思いや、花壇を作ったり等を考えており、ゴミステーション迄の清掃も限られた方だけでなく、色々な形での参加を検討され、更に地域との付き合いが深められる事に期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表は自己評価は自分達のケアを振り返り次へつなげる為に、素直な気持ちで書けば良いと伝えているが、評価の目的や結果の活用について、深い思いは伝わっていないと感じている。各職員に自己評価を記入して貰った後、代表が一つにまとめる中で一人の職員の意見であっても、現状を変える必要性のある事は取組もうと考えている。前回評価結果に基づき職員と話し合い、改善策を検討し少しずつ取り組んでいる。	○	改善策を検討する際、進捗状況や目指す方向等を常に確認しながら進めるように、具体的な目標を掲げ取組むたいと考えており、評価の一連の過程を通して、更に質の向上につながられる事に期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はリビングで行い職員は業務をしながらや、入居者も時に在席する事もある。家族会で毎回代表者を決めて出席して頂き、会議録は全家族の方に郵送している。出席者から「火事の時に困る」とご意見があり、自治会の方が役場に相談され以前より懸念中であった、町内の消火栓が早々に設置された。認知症の理解を深め若い人達にも広げたいとの思いで、勉強会を提案し公民館の敬老会でお話して、地域の方に「何時でもどうぞ」とお伝えし、介護相談に応じれる事やホームの存在を理解して頂いている。	○	業務の傍らで聞いている職員にも周知を図り、会議に積極的に参加していく事や会議録を記名にする等、今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請手続きや推進会議の案内を支所にお持ちしているが、ホームの活動内容等の情報提供は定期的に行われていない。何かある時に支所に出向き入居者の家庭環境についてや、必要に応じて役場の方へ同行して頂き家族と話し合い、退居後の生活について相談したり助言を頂いたりしている。	○	定期的に窓口を訪れたり、推進会議の案内をお持ちした時に口頭での報告から始め、徐々に継続的な報告につなげていきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書発行時に“ポテの丘だより”をお渡しし、遠方の家族の方には入居者の体調が良い時に、電話をして声を聞いて頂く等その時の状況に応じて、来訪時に暮らしぶりをお伝えしたり病院受診等、何かある時には電話で報告している。ケアをした時に“お礼”と言ってお金をくださったり、昼食代を払われる入居者がおられ、その都度頂いたお金を出納帳に記載し、来訪時や請求書送付時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市等の相談窓口は入居時にお伝えしホーム内に掲示し、ご意見・不満・苦情を率直に言って頂けるよう、来訪時や計画作成時に家族に「何かありませんか」と常にお聞きしているが、特にご意見を頂く事は無い。親睦も兼ねて年に一度家族会・食事会を行い、苦情等を言い易い雰囲気作りを行うと共に苦情等が無いよう今後も努力を重ね、ご意見を運営に反映させられるよう維持継続していく。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限にするため調理専門スタッフ等、基準異常の人員配置や休みの希望に極力応じている。悩み等開設当初からの職員に個人的に相談し解決しており、必要に応じて代表・管理者に報告があり対応している。業務中の気持ちを切り替えられるように、ゆっくり休憩する時間を作る等の改善や、職員の一泊旅行等ストレス解消に努めている。新規職員に各勤務帯の業務研修をして貰いながら、情報提供・指導を十分行って勤務に就けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアについてや何かある時に必要に応じて接遇や介護技術等、ミーティングの時に勉強会を行っている。県等の研修会や協議会主催のフォローアップ研修、消防学校の研修等に参加しミーティング時に報告している。個別計画としての立案はないが職員の個性や能力について把握し、その時に応じた職員を選出し研修に出席して貰う等、代表・管理者は大まかな研修の構想を考えている。	○	職員個々と話し合いその能力を活かしていけるよう、個別に目標設定し明確化する事で、自己研鑽につながっていくと考えられる。更に内部研修の隔月の定期的開催を予定しており、職員の立場・経験・習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるよう、各職員の育成計画の作成に期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の雲仙支部や西海市グループホームケア研修会に代表・管理者・職員が参加している。事例や課題の合同検討を行ったり、他ホームからの実習を受け入れをしている。	○	他ホームの見学や実習を予定しており、相互訪問等を通してケアの振り返りや新たな視点、更なる向上に向けた気付きにもつながっていくと考えられ、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みながらサービス利用が出来るよう入居前に訪問し、入居後は家族の方に頻りに訪問して頂いたりしているが、緊急な入居が多く独居等で家庭的な背景・生活習慣等、解らず入居者も職員も手探り常態の事もある。地域から入居された方が毎日一人で外出される為、ホーム裏の崖からの転落防止等の安全に配慮し外柵を作ったり、ホーム玄関前にテーブル・椅子、パラソル等を備え付け寛げる様に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ材料なのにどこか一味違う料理のコツや、身につけている「もったいない」という言葉の重み、戦争体験や生活の知恵等学ばせて頂いている。常に心掛け「ちらし寿司を作りたいので教えて貰っていいですか」等、自らして頂けるようお願いし、入居者の心が沈んでいるような時には、その方が活躍していた頃の話題で瞬間でも生き生きして頂いている。職員は悩み等を表情に出さないよう努めているが、入居者が背中を撫でてくれたり笑顔に救われている。	○	入居者との関係や職員との相性等、自分の考え・思いに向き合いコントロールしながら、常に新鮮な気持ち・疑問を持ちケアをしなければならぬと考えており支援する側、される側に捉われる事なく今後、更に取り組みでいかれる事に期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活習慣や家族からお聞きした情報を基に、皆と一緒に居たい時や一人で居たい時等を把握し入居者間の調整をしたり、ケアの時の様子を職員で話し合い思いを汲み取っている。男性入居者の排泄介助時に、普段は使わないが本人が馴染まれている言葉で誘導したり、職員が布で模型を作って装着し一連の排泄行為を、側で模倣しながら自立排泄できるようにしたり、今後も今の気持ちを把握する為、フツと漏らした言葉や表情の変化を見逃さないようにしていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いや生活習慣を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の、個別・具体的な課題・目標の記載はあるが、一部で『地域で暮らす』視点がなかったり、入居者・家族の立場に立った表現でケアの手順が細かく記載されている時と、行われているケアが記載されていない事もある。意向等を反映出来るよう入居者・家族と話し合っているが、家族は「おまかせします」と言われる事が多く、気付き等が反映出来ていないのではという思いがあるが、職員からは活発な意見が出ており気付き等を反映させている。	○	『地域で暮らす』視点を全入居者に盛り込むと共に、認知症の疾患について専門的な事等、医師からの助言を頂いたり計画を見て頂く等、個別の介護計画立案の充実に向けて更なる取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者・家族の要望や状態に変化が生じた時に、介護計画の見直しを設定した時期の前でも行い、新たな気付き等があった場合計画に反映させるよう、臨機応変に見直しを行っている。要望・状態変化がみられない入居者についても、ケアの変更の必要性について月に1回程度は、検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員に何時でも電話や相談ができ、様子を見に来てくれたり必要に応じて医師に報告したり、訪問看護も取り入れる予定である。帰宅希望時に職員が付き添い自宅で一緒に過ごしたり遠方の娘宅へお連れしたり、外出を好まない入居者がテレビを観ていて「旅行したいね」と言われ、一緒に旅行する等の支援をしている。電話での介護相談や誰もが気軽に来れる場所であり、地域の方のご要望に対しその都度話し合いながら、柔軟に対応していきたいという思いがある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関等をお聞きし、かかりつけ医の受療や協力病院の医師に往診して頂いている。かかりつけ医に事前に電話し、高度の認知症についてインターネットで調べ医師に相談したり、ホームでの状況を詳しくお伝えし内服薬を変更して頂き現在は症状コントロールが出来ている。職員が通院介助を行い受診結果は電話でお伝えしたり、記録をコピーして請求書と一緒に送っている。さらに今後も医師との連携が強められるよう取り組みを継続したい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りの方針について、医療処置が必要になった時は入院治療になる事をお伝えし、肺炎を繰り返される入居者の胃瘻増設を医師から勧められたが、家族と相談しながら口腔ケアを行い、経口摂取が出来るようになっていたり、歩行器歩行が出来るようになっていたり。状態変化がある時には家族・職員と繰り返し話し合い、家族のご希望を優先しながら医師・職員の意見を聞き対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方の生活習慣に応じて排泄時の声かけを、馴染んでいる言葉を使用して誘導したり、入居者の自尊心・羞恥心に配慮しさりげなくパッドをお渡ししたり、失禁時に「お風呂の時間ですよ」とお誘いして対応している。入浴時は背部を職員が介助して前はご自分で洗身して頂く等の配慮をしている。個人情報保護法の理解は出来ており情報の漏えい防止に努めているが、個人情報を書かれたメモ紙等をそのまま捨てる時がある。	○	個人情報を書かれたメモ紙等を捨てる際も、手で千切って捨てる等細心の注意を払い、情報の漏洩防止の取り組みに期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが取れるよう日課についての声かけ・誘導は行うが、生活習慣に応じての起床・朝食時間等、入居者に合わせている。昼食前・夕食前に体操をしたり入居者それぞれの限界になる時間・表情・行動を見て支援している。手押し車にゴミを積んで押して頂いたり、軽い袋を持って頂き一緒にゴミ捨てをし、その後近所を散歩したりしている。健康に支障のない範囲でできる事を見つけ、納得される迄ゆっくり最後迄して頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味見、下膳や食器洗い・拭き、卵のうす焼きを作って頂いたり、御飯・汁ものは自分でよそおい盛り付けてある副菜を自分で運んでいる。職員も一緒に食卓につき御飯だけ・副菜だけしか食べなかったり、噛まずに飲み込み状態の方の前に座ってゆっくり食べられるよう支援している。菜園の収穫物や旬の食材を利用し弁当を取ったり、行事の時にバイキング形式にしたり、誕生日は好物のおはぎや刺身をケーキ仕立てにする等、楽しんで食事が出来るよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の個浴で対応しているが毎日入浴される方もおり、生活習慣で入浴回数が少なかった方も、職員が交代したり声かけを変えたりしながら、納得がいく迄ゆっくり入浴して頂いている。四肢の拘縮等で浴槽に入る事が困難な方を子供用プールで入浴して頂いたり、経口摂取が出来ない方の誕生日にバラ湯にして職員も裸になって一緒に入ったりにしている。入浴を楽しんで頂く為に季節に応じて、菖蒲湯・ゆず湯等を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のADLの低下は職員が手を出し過ぎて、発揮出来ていない力があるのではないかという代表者の思いがあり、入居者本位を再度考えなおしていく中で職員が手を出さず、出来るところまでして頂くとう今取り組んでいる。共同生活という入居者同士の支え合いを大切にしながら、洗濯物のタオルや洋服等その方に応じてたたくで頂いたり、カラオケや布巾縫い、ゴミ捨て用に新聞折をして頂いている。	○	入居者のADLの低下によってケアにかかる時間に偏りが出来、つい職員が手を出し過ぎていた事を、常に意識し振り返りながら、入居者に役割・楽しみ事を持って頂く働きかけの、更なる取り組みに期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の散歩・近くの店への買物等の外出も、ADLの低下と共に機会が減ってきているが、ゴミ捨ては出来るだけ一緒に行くようにしている。気分転換や五感刺激の為にドライブや車窓からの見学等、戸外で過ごして頂く機会を積極的に作っている。買物に行きソフトクリームを食べたり入居者の希望をお聞きし支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口については常時施錠しているが、玄関・テラスの出入り口は20:00～7:00迄の防犯上の施錠以外は行っていない。プライバシー侵害や音による行動制限に配慮しながら、玄関のチャイムや居室の暖簾の鈴音で見守りを行ったり、入居者の落ち着かれなくなる時間帯等を予め把握し、一人で出かけられた時は後ろからついて行ったり、職員同士で声を掛け合ったりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害・火災発生を想定して年に2回、職員・入居者・地域の方・消防署・消防団と避難訓練を行い、救急法等の講習を受けている。災害所の協力を職員家族にお願いしているが、訓練の参加には至っていない。災害に備えた備品等ホーム内には準備されていないが、避難先には確保している。	○	ホーム傍に消火栓が設置され、この事を利用した訓練をしていきたいと考えており、地域の方に災害時の協力依頼をすると共に、避難時の見守り等の担って頂く役目等を検討したり、災害時の備蓄についても必要な物品・量等、職員と共に検討し整えていかれる事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みに合わせ自分でご飯をついたり、おかわりをされる方もおり一時的な体重増加はあるものの、血液検査も異常値はなく必要時に医師より注意して頂いたり、週1回体重測定を行い維持している。食事摂取量が少ない時にはスティックパンやバナナ、おにぎり等を希望される時に摂取できるよう準備したり、高カロリー飲料やゼリーに変えカロリー不足がないように気を付けている。1000ml以上の水分摂取ができるよう、希望をお聞きしながら飲み物の種類を選べるようにしている。	○	適正体重を基に活動量・年齢・体格に応じた、必要熱量を提供できるよう書籍等を参考にしながら、個別の食の支援をされる事に期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先の小物入れや生け花が飾られ、トイレに植木が置いてあったり、風呂場前に手作りベンチや椅子が置かれ、寛ぎや体操のスペースになっている。入居者の身体状況に合わせて、ロービーの模様替えをしながら生活し易いよう工夫している。音の大きさに注意して調節したり、15分毎に空気清浄機が自動的に作動し、空気の澱みや臭気に対する配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン・エアコンはホームの備え付けであるが、本人・家族と相談しながら、家で使われていたステレオや籐椅子、箆箆や鏡台・手鏡、化粧ケース、ベッド、マリア像やお地藏さん、お位牌、置時計や家族写真、ぬいぐるみ等本人が望む物を持って来られ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		